第 27 号
令和２年 12 月 17 日発行
【発行元】
鱒沢地域づくり連絡協議会
事務局（鱒沢地区センター）
TEL　67-2115（内線 160）
FAX　67-2157

鱒沢地区センター業務委託の受託に向け検討

自治会等から委員を選出　全３回の検討委員会を実施

遠野市では、来年度から全11地区の地区センターを指定管理者制度及び業務委託に移行することを示しております。施設を持たない４地区（遠野、松崎、宮守、鱒沢）のひとつである当地区は、業務委託の受託に向け検討を進めました。

前号で検討委員会の設置と検討内容の概要についてお知らせしたところですが、全部で３回実施した検討委員会では、受託組織の在り方、組織の名称等及び就業規則等の組織の規則について検討を進め、報告書にまとめました。

今後は、鱒沢地域づくり連絡協議会において、検討委員会の報告を受け、その報告をもとに受託組織について検討し決定していく流れとなります。

↑第３回検討委員会の様子（12 月５日）

コミュニティの大きさからみる体制の変化

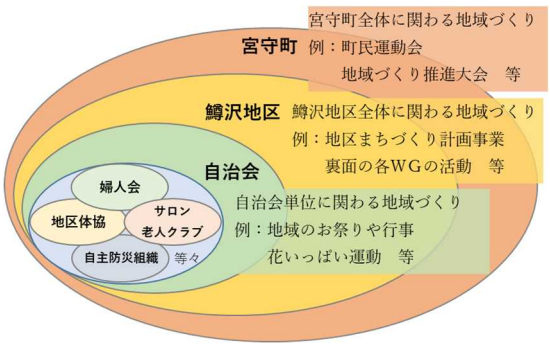
小さな拠点による地域づくりにより、地区センターの業務委託や行政区の再編について進められている所ですが、地域にとってどのような変化、影響があるのかについては、関心度の高いものと思われます。そこで、今回は、小さな拠点による地域づくりが鱒沢地区に与える変化や影響の想定される事柄について、解説したいと思います。

下の図は、鱒沢地区における地域づくりに関わる範囲を表したものです。鱒沢地区では、自治会単位の地域づくりが活発に行われています。自治会の中、又は複数の自治会にまたがった形でサロンや地区体協などの地域活動団体があります。

その上に、鱒沢地区があります。鱒沢地区単位で活動するのは、地連協をはじめ鱒沢地域教育協議会（地教協）や鱒沢交通安全防犯協会の数団体しかありません。さらにその上に、宮守町全体に関わる団体があり、体育協会や婦人会、老人クラブなどは宮守町全体で連合した組織を構成しています。

地区センターの業務委託を受託する地域運営組織は、鱒沢地区単位全体を対象とするものですが、前述のとおり、宮守町単位の組織にも関わりがあるため、地域運営組織が部分的に町単位までの地域づくりを行う必要があります。

行政区の再編は、自治会単位の範囲を再編するものですが、自治会単位（統合予定の自治会も含む）の既存の活動が活発であることから、既存の団体単位の活動範囲を残すのか、団体も再編後の自治会単位に合わせて範囲に拡大していくのかなどの検討が必要となることが想定されます。



↑図：鱒沢地区における地域づくりに関わるコミュニティの範囲

広報のバックナンバー（カラー版）は鱒沢地区センターのＨＰをご覧下さい。　鱒沢地区センター　検索

買い物支援コロナの影響により中止
ウィズコロナに必要な支援策とは

11月25日（水）に宮守老人憩いの家で第3回暮らしの安心ワーキンググループ（以下：WG）を実施しました。

本WGでは、買い物支援について検討を進めており、昨年は、マイクロバスで買い物を支援する取組みを行い、今年度も実施するために12月4日（金）に買い物支援を行うことをチラシにて全戸周知しておりました。2名の申し込みがあり、実施に向けて検討しておりましたが、新型コロナウイルスの感染状況により、利用者の安全を第一に考え、今回は、中止とすることにしました。

その後、連れていく形式の買い物支援は、これまでに車両の確保等の課題が挙げられており、さらには、ウィズコロナ（注1）による買い物支援として、これまで行ってきた支援以外の方法も検討する必要があったことから、これまでの振り返りと、買い物支援の在り方について検討しました。

昨年度、民生・児童委員等を交え、買い物困難者と想定される方の聞き取り調査を行い、その調査を基に買い物支援を行いましたが、今年度から新たに始まった鱒沢地区内を通る移動販売など、状況の変化もあり、買い物支援の方法や、買い物困難者を取り巻く状況を整理するため、マップに、買い物の手段、方法等の外的な要件と、想定していた買い物困難者自体の内的な要因を落とし込む作業を行いました。

その他、買い物支援の方法として、集会所等にお店等がくる形の訪問販売や、運行している移動販売を支援する方法など、考えられる支援案を挙げ連ねました。

年明けに、今回のWGで出た情報等をとりまとめ、それをもとに今後の方針や、来年度の事業計画等について検討してく予定です。

注1：新型コロナウイルス感染症が拡大し続け、新型コロナウイルスとの共存・共生を図る状態。

干し柿づくり体験会
昨年に引き続き開催

11月15日（土）に、宮守老人憩いの家で鱒沢地元学～干し柿づくり体験会～を開催しました。これは、昨年度から、農と食WGと生涯学習講座が連携して行っており、柿の皮むき器を使い、干し柿作りを体験することで、地元食材の再発見と、鳥獣害被害の一因となる放置果樹の減少につなげるため実施しております。

↑作った干し柿を背景に集合写真

当日は、小春日和の中、計9人の参加者が、それぞれが持ち寄った数百個分の柿の皮をむき、干し柿作りの準備を行いました。

初めて参加した方からは、他の講座にも参加したいとの感想をいただきました。

地域マップ映像化に向け検討

11月10日（火）に、宮守老人憩いの家で第1回交流と継承WGを実施しました。

新型コロナウイルスの感染状況等により、なかなか集まる機会が持てず、今年度初めての検討の機会となりましたが、事業計画に沿って、桜の空撮等を行っており、今回は、その映像素材をどのように活用していくのか、昨年度作成した名所・旧跡の地域マップ「実はすごいぞ！鱒沢ひすとりー」の全戸配布等について検討しました。

映像素材については、地域マップをもとに、映像化することを決めました。今後、細かな内容等について検討を進めていきます。

地域マップの全戸配布については、ポスターサイズのままで、年明けに配布することで、準備することとしました。